

勝又 浩著

### 山椒魚の忍耐

井伏鱒二の文学

井伏鱒二の作品を読んでいない人でも、『山椒魚』のことを知っている人は多いだろう。わたしも著書の勝又浩氏と同じように教材作品としてはじめて読んだ。当時はごもごもだった変な小説だと思っただが、その後、彼のことを深く知ったのは、わたしの老母と関係がある。彼女は戦争中に広島にいて、原爆が投下される一日前までそこにいた。たまたま帰省し難を逃したが、親友だった女性は被爆しなくなった。彼女はプロテスタントの信者で、どうしてキリスト教の国がこんなことをするのかと、力のない目に涙をためて言ったらしい。まもなく九十七歳になる老母は、その声

が未だに耳にごびりついているようだ。爆心地に近く、一人助かった彼女は、なにがあっても生きていくだけで幸福だと言った。そのことを夏になると何度も聞く。というのも八月六日は父の命日でもあり、母もわたしも原爆や敗戦のことを、どうしても意識させられる。そういうこともあり、少年時代に『黒い雨』を読んだが、この『山椒魚の忍耐』も個人的に前記のようなことがあったので、興味深く読んだ。むしろテーマの重い『黒い雨』は、井伏作品の中では異質だという思いがある。勝又氏も書くように『黒い雨』は「原爆によるたくさんの犠牲者から取材し、その上に成り立っている小説だ。言い換えれば、罪なくして地獄を見、体験してしまっただけで不幸だと言った人々の不幸の上に出来上がった小説」であると言っている。また「戦争のために旗を振らなかった井伏鱒二は、平和のためにも旗を振らない人だった」が、多くの取材をして書いたこの

作品は、やはり井伏作品の中では特異だ。広島出身という点もあり、それだけ書かずにはいらなかったのだろうが、この作品の根底には彼の静かな怒りがある。

改めて知らされた評論だ。そして井伏の自作への拘りも最も強い人だと改めて知らされる。たとえば著者は『山椒魚』の幾多の手直しと二度の結末削除の背景には、悲惨な戦争への「絶望」があったと指摘し、『山椒魚』の前身である『幽閉』はチーホフの『賭』に触発されて書いたことなど深く調べられている。それは「川を小説に書こう思った」と言って、川沿いで生活している住人の話よりも、川を中心に書いたりしてさまざまなかたちを試みている。そのことは秋山駿の「新しい文体を創造する」という野望をもっていたということになるかもしれないが、井伏が文体を模索し続けていたからこそ、記号から句読点まで、人も呆れるほど改稿を繰り返していたということになってくる。

そう思うとここに取上げられている『山椒魚』『さきさきな日記』『かるさん屋敷』『へんろつう信』『青々島大概記』など長編・短編、歴史小説、日記調のもの、悲惨な戦争ものなど書いたものは多岐にわたるが、それはあくまで文体の追求と考えられなくもない。また勝又氏は子弟関係にあった太宰治との確執も取り上げているが、その対

## あくなき文体追求のさまを

潔さと素直さ、井伏鱒二の文学者としての佇まい

佐藤 洋二郎

本書は「山椒魚の忍耐」をはじめ「川と街の考現学」「理想郷としての主従」など、井伏の佳品を十一章に分けて論考を試みている。いずれも新しい発見と読み応えがある。個人的には、日本の文学史上、この作家ほど自由に作品を書いた人はいないという感慨を抱いているが、そのことを

改めて知らされた評論だ。そして井伏の自作への拘りも最も強い人だと改めて知らされる。たとえば著者は『山椒魚』の幾多の手直しと二度の結末削除の背景には、悲惨な戦争への「絶望」があったと指摘し、『山椒魚』の前身である『幽閉』はチーホフの『賭』に触発されて書いたことなど深く調べられている。それは「川を小説に書こう思った」と言って、川沿いで生活している住人の話よりも、川を中心に書いたりしてさまざまなかたちを試みている。そのことは秋山駿の「新しい文体を創造する」という野望をもっていたということになるかもしれないが、井伏が文体を模索し続けていたからこそ、記号から句読点まで、人も呆れるほど改稿を繰り返していたということになってくる。

そう思うとここに取上げられている『山椒魚』『さきさきな日記』『かるさん屋敷』『へんろつう信』『青々島大概記』など長編・短編、歴史小説、日記調のもの、悲惨な戦争ものなど書いたものは多岐にわたるが、それはあくまで文体の追求と考えられなくもない。また勝又氏は子弟関係にあった太宰治との確執も取り上げているが、その対

★かつまた・ひろし 文芸評論家、法政大学名誉教授。主な著書に『我を求めて 作家論集』、『引用する精神』、『中島敦の遍歴』(第十三回やまなし文学賞)、『私小説千年史 日記から近代文学まで』(第二八回和辻哲郎文化賞)など多数。一九三八年生。



山椒魚の忍耐

四六判・268頁・2800円  
水声社  
978-4-8010-0371-2  
TEL. 03-3818-6040